

報告事項 No.4

会 議 録

会 議 の 名 称		令和3年度第3回守谷市地域自立支援協議会
開 催 日 時		令和3年9月17日（金）
開 催 場 所		
所管課		保健福祉部 社会福祉課
出席者	委 員	
	事 務 局	

審 議 経 過

新型コロナウイルス感染拡大のリスクを回避するため、令和3年度第3回守谷市地域自立支援協議会は、書面協議で行った。

1 議 題

（1）障がい児者の災害時の避難支援について（協議事項）

障がいの特性に応じて必要な準備及び支援について、第2回の協議結果に基づき作成された資料について、委員から次のような意見があった。

- ・障がい別に、場面ごとに、よくここまでまとめて頂き感謝する。分かり易く、助かる。
- ・障がい別に分けてあるが、一人ひとりに特性があり、一様に対応出来る場、プラスその人に合った、その人が必要とする対応があると感じた。
- ・災害時の対応なので、シンプルな内容でよいと思う。
- ・「支援してくれる方」は普段障がいのある方と接していない方を想定されていると思うが、障がいの判別が災害時ではより困難かと思う。
日頃から支援する可能性のある方へ、対応の意識付け・教育などが課題かと思う。
- ・「避難所での支援」の項を読むとつくづく、どの障がいがあっても、体育館のような広くて人が多くて雑然とした場所は滞在に適していないと感じた。
- ・配布資料に仕上げる際には、大きめの文字で、漢字にルビをふって、イラストを入れて、何度でも読みたくなるようにお願いしたい。
- ・それぞれの障がいに対して実際に対応する場合には少し状況を把握することが必要だと思う。何の障がいか？それぞれの対応の仕方もあり声かけは大切な事だと思う。

- 出来れば、それぞれの地区の避難所はあるが、それぞれの障がい者の避難所がほしい。一般の方、高齢者、乳幼児、車椅子対応など、それぞれが同じ建物では障がい者は大変かと思う。これからの課題として希望する。
- 障がい児者の災害時の避難支援についてだが、制度、仕組が整備されても、いざ、有事の時、地域としての支援体制が地域によって格差があり、行政としてもそのところを「地域まかせ」で放置している。
- 自主防災組織、自治会の有事対応の各地域標準化、共通認識が必要ではないか？ここを、行政の指針、体制づくりをリードするように切に願う。
- 自治会等の自主行動では限界がある。毎年変わる自治会長の考え方で変わってしまう。
- 障がい、認知症等、病名が一緒でも、個人個人、症状や特性が異なる。実際には支援員や介護士でも難しい点があると思う。一般の方の協力が不可欠なので、更なる工夫が必要だと思う。
- 協議事項で意見のあった知っておいてもらいたい情報（普段の健康状態・不適切なこだわり・偏食等の情報）については、「本人及び家族が準備するもの」に含まれているという理解でよいか。
その場合は、何か共通のツールを用いる予定か。そのツールの検討も必要だと思う。
- 特性、準備物、自宅及び避難所での支援といった具合に整理して作成したのは、とても有意義だと思う。
作成した資料をもとに、市民の皆さんに啓発する資料（リーフレット等）を作成していくということによいのか？もし、そうであるのならば、表現を再度確認する必要もあるように感じた。例えば、発達障がいがある方の特性で「変わった人」とあるが、あまり適切ではないように思う。
- 発達障がいがある方も含めて、すべての障がいがある方の本人及び家族が準備するものにおいて服用している薬、お薬手帳が必要と思われる。
- 本人及び家族が準備するもの
偏食があり、避難所で支給される食べ物が食べられない方は本人が食べられる保存食を用意していただける配慮があると良い。
- 自宅で避難生活をする場合の支援
障がいのある方を自宅に残して支援物資や水を取りに行くのが難しい方には、自宅へ届けてもらえると良い。
- 避難所での支援
静かに同じ場所で過ごすことが苦手な方がいるため、一般の方たちとは別の部屋を用意すると良い。